

# 組合士 アラカルト

新南陽鉄工団地協同組合事務局長

なかむら たかし  
中村 隆さん

## 「皆さんあつてこの組合」と運営に取り組み40年

「やりがいのある組合。それが私にとっての新南陽鉄工団地協同組合です」と同組合の中村隆事務局長は言う。

それは、昭和48年以來約40年の奉職を通じて培われてきた中村さんの組合観である。同時にまた「組合に役立ち、組合のためになる組合士」という、組合士としての中村さんの信念にもつながっている。

### 団地スタートから携わる組合運営

山口県周南市にある当組合の現在の組合員数は14社。昭和45年の組合設立後、高度化資金を活用して組合および組合員各社の土地、建物、設備等を整備、拡充してきた。中村さんは、入職以来、高度化資金の計画、手続き、そして着工と団地の立ち上げから作り上げるまでに関わり、組合の運営に携わり続けてきた。

この組合、団地とともに歩んできた歴史、経験の積み重ねが、冒頭の「やりがいのある組合」という思いに込められているのである。そして、その思いに基き、団地組合事務局として「組合員のみならず、人のための組合」を常に念頭に運営に従事してきているのである。

### 事業展開は多様に

その姿勢は組合事業の展開にもよく現れている。組合の主要な経済事業としては、共同受電事業、共同購買事業等があるが、この他にも、多様な事業を展開している。例えば、人材確保事業では、組合を対象とした公的助成を活用しながら、人材確保や人材育成に資する講習会や調査なども実施し、組合員のニーズを掘り起こし、満たすことにも役立てているのである。また、外国人技能実習生受入事業は16年に渡って続けており、この間、無事故で延べ130人を受け入れるという実績を積んできているのである。

さらに、組合運営を効率化することにも早くから取り組んできた。昭和53年には経理事務や貸付金返済予定表を利用した請求書作成について、コンピュータによる業務委託計算を開始している。その後、消費税導入をきっかけに組合事務所内にオフコンを導入、そのメンテナンス終了後にはパソコンにプログラムを載せ替え、処理業務を行っている。

このような情報化の推進については事務処理業務だけに留まらず、昭和59年にはデジタル交換機を導入して団地内の内

線化を行い、現在に至っている。また、山口県中小企業団体中央会の支援を受けた情報ネットワークの構築も熱心に進めてきた。その流れは団地でのインターネット利用にもつながっており、一般向けにはホームページを作成しているほか、組合員向けには借入金情報や共同購買、雇用保険関係、検針入力と使用実績などをネットにつないで公開、組合員各社の事務処理等の効率化にも役立ててもらっている。

### 組合員あつみの組合

組合は結成当時から理事長の強いリーダーシップのもと強い一体感をもって運営され、その後も歴代理事長や役員のリードと指示を得ながら、事務局は組合のその時々々のニーズを実現するために役割を果たしてきた。このような一体感の醸成には、組合青年部（現在は解散）の果たしてきた役割も大きかった。現在、組合員各社のトップにある世代はこの青年部での活動を通じて互いの顔を知り、組合としての団結、協力、支援ということを確かめ合ってきたのである。

多くの団地組合では世代交代が進み、組合員各社の代表の中で組合の存在意義

が薄らぐ傾向がある。これは当組合でも同様であるという。その中で、中村さんは、「組合の必要性をどこでアピールしていくか」を今後の組合の課題と位置づけていると言う。「一世代前の組合員のみなさんのところへはこちらから話をして行き、各社の総務部門的なサポートもしたのですが、今はそういう時代ではない」と言う中村さんは、最近「もっぱら聞き役に回っている」とのことである。

また、何か困ったことがあると中村さんのところへ相談に来る組合員の方もいるそうで、「投げかけがあれば、必ず答えるようにしています。こうして、うまく組合を活用していただいで、そこから組合の存在、必要性を感じてもらえたらいいと思っています」と受け止めている。これは、まさに経験に裏打ちされた自信があればこそその対応だと思ふのだが、「組合員各社の協力と支援があり、事務局に対する願望があって、組合は成り立ちます。私たち事務局はこの願望をつかみ取る努力を続けるだけです。なぜなら、組合は組合員あつての組合だからです」と、中村さんは今日も着実な運営を続けているのである。

